

やってみよう!

# 家族との連絡方法を確認しておきましょう

災害時、最も心配になるのは家族の安否です。東日本大震災では通信回線がつながりにくくなり、安否確認に手間取りました。複数の手段で連絡が取れるようにしておきましょう。

## 学校などでの家族の引き取りルールを確認しましょう

東日本大震災を受け、学校などでは、気象警報や土砂災害警戒情報などが発表されたり、実際に災害が発生したときに備え、帰宅や家族への引き取りルールをつくっています。引き取りルールは各施設によって異なるので、施設に確認して家族全員がわかるようにしておきましょう。

### 学校などで被災した場合

- 家族への連絡体制はどうなっているのか
- 施設の避難誘導体制はどうなっているのか
- 家族への引き渡し方法はどうかしているのか
- すぐに引き取りに行けないときはどれくらい保護してもらえるのか

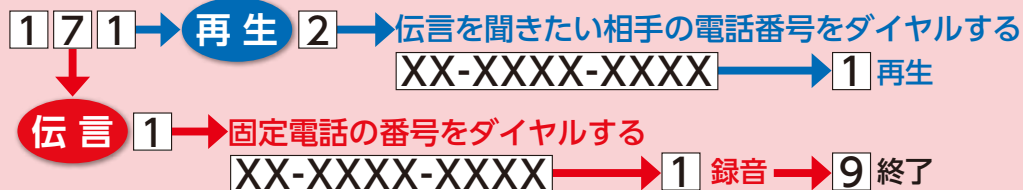
## 音声・文字による連絡方法を知っておきましょう

### ■音声による連絡方法

震度6弱以上の地震など大きな災害の発生により、被災地へ電話がつながりにくくなったとき利用できるようになる声の伝言板です。

#### ●NTT西日本災害用伝言ダイヤル 171 を使う

携帯電話や公衆電話からもかけられます



※ガイダンスが流れるので、その指示に従って落ち着いて録音・再生をしてください。

●NTTドコモでは、災害用音声お届けサービスという連絡方法があります。

### 公衆電話を利用

災害時、**公衆電話は優先的に回線が確保されます**。また、災害時には被災地の公衆電話は無料で使えます(国際電話は使えません)。ただし、旧型の公衆電話(グリーンの本体とシルバーのボタン)の場合、10円玉かテレホンカードを入れないと電源が入りません。被災地以外で使用する場合も、テレホンカードや10円玉を持っていると便利です。



### 携帯電話の「災害用伝言板」を利用

ご自身の安否情報を文字で登録することができ、登録された安否情報は携帯電話やパソコンから確認できます。詳細については、各携帯電話会社にお問い合わせください。

### 携帯電話のメールを利用

携帯電話のメールを利用するのも有効です。災害発生直後はつながりにくくなり、相手に届くまでに時間がかかりますが、自分の状況を随時送信しておくことで、災害用伝言板と同じ役割を果たします。

### パソコンのEメールを利用

東日本大震災では、パソコン(インターネット)を使ったEメールは比較的届きやすく、多くの人に活用されました。

## ソーシャルメディアを使って安否確認をしましょう

東日本大震災では、電話がつかない中、SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)などのメディアが安否確認に役立ちました。こうしたサービスを家族や友人とともに普段から使い慣れることで、いざというとき複数の方法で連絡を取ることができます。